

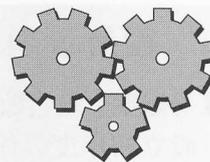
NPO法人

北九州TSニュース

Kitakyushu Techno-Support

2004

8



通巻3号 / 平成16年8月12日発行
発行/NPO法人 北九州テクノサポート
・発行人 秦 吉昭・編集人 三上 亨
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル1F
〒804-0003 Tel・Fax093-873-1453

支援部会活動を軸に事業展開

第2回通常総会 16年度計画を決定

特定非営利活動法人・北九州テクノサポート（以下、KTSと略称）では、6月10日（木）、北九州市戸畑区・北九州テクノセンター1Fホールで、第2回通常総会を開催しました。

当日の行事は次の通り。

1. 通常総会 14.30～16.00
市計画説明 16.00～16.20
2. 記念講演 16.30～17.30
3. 懇親交流会 17.40～

の3部構成で行われました。

まず第1部の総会は、正会員の本人57名、委任19名、計76名の出席者数で適法に成立しました。

司会進行には、泉館昭雄理事が当たり、冒頭に秦吉昭会長が挨拶の後、推されて議長となり議事に入りました。

第1号議案 平成15年度事業報告及び収支決算承認の件

事業報告・仲隆喜副会長、収支決算報告・米沢昌理事より説明、全会一致で承認。

第2号議案 平成16年度事業計画及び収支予算決定並びに入会金、会費の件

事業計画案・小川勝副会長、収支予算案及び入会金・会費の件・米沢昌理事より提案説明、全会一致で原案どおり可決決定。

第3号議案 役員選任規約制定の件

議長より、本規約提案の経緯及び趣旨について説明、指名推選方式による原案を、全会一致で可決決定。

このうち、決定をみた16年度事業計画におけ



16. 6. 10 第2回通常総会（北九州テクノセンターホール）

る基本方針の重点は次のとおり。

☆本年度事業重点目標

1. 各支援部会の充実を図り、部会員の積極性に基づいた活動の展開
2. 各支援部会活動を通じて中小企業活性化支援
3. 北九州市、(財)北九州産業学術推進機構、大学・高専、その他関係機関、企業と連携を密にして調査や産学連携等、コーディネート、プロモーターとしての役割の遂行
4. 環境負荷の低減、循環型社会構築のための自治体や企業等の取組みへの積極的な参画
5. ITを活用したネットワークの構築を推進し賛助会員の加入促進
6. ネットワークや広報等を通じて知名度のアップを図るとともに、業務改善、組織強化の推進
7. 各支援部会や個人活動等を通じ、機会あるごとに自己研鑽、相互研鑽に精励

役員改選、正副会長を再任

第4号議案 役員改選の件

設立初年度の任期に限り、成立の日から16年6月までと定められた定款附則により役員改選を実施。

選挙方法は、前号議案で制定をみた選挙規約を準用して指名推選方式を採用、選考委員から推選された役員候補を議場に諮り、全会一致で提案どおり次の各氏が選任された。

理事 秦 吉昭、仲 隆喜、小川 勝
三上 亨、石川 浩、安東 静
米沢 昌 (以上、重任)
小野晃一、後藤禎二、島谷哲郎
鳥越年高、重藤将美 (以上、新任)

監事 増田幸一 (重任)

新役員の任期は2年、K T Sの事業運営については、理事会が決議機関としてその任に当たります。なお、監事は、理事の業務執行状況の監査に当たることとなります。

また、正副会長は理事会の互選ですが、これも選考委員会の推選どおり再任されました。

会 長 秦 吉昭

副会長 仲 隆喜、小川 勝

記念講演と交流会

議事終了後、来賓紹介の後、橋本洗福岡県商工部長 (代読)、阿南惟正(勲)北九州産業学術推進機構副理事長、安藤英和北九州市産業振興部長より来賓祝辞を頂いて総会を閉会、続いて「北九州産業技術博物館の計画」について、北九州市企画政策室の吉森裕主幹から説明と支援協力要請があって、第1部を終えました。

第2部の記念講演は、

「下請けからブランドメーカーへ」

株式会社タカギ 高城寿雄代表取締役社長のテーマ・講師で行われました。

1時間にわたった高城社長のお話は、オイルショックで行き詰った下請けから、技術開発型企業に転換、人材を得て相次ぐ新製品・新市場開拓によりブランドメーカーへ成長発展をみた軌跡を諄々と述べられ、参会者に感銘を与えました。

第3部の懇親交流会は、同じく1Fの隣室レストランに席を移し、総会出席者の大半が参加、小出勝敏中小企業支援センター長の乾杯音頭の後、親睦交流の輪を拡げ、盛況裡に幕を閉じました。



本年度を飛躍の年へ

会 長 秦 吉 昭

本年度の総会を無事終わる事が出来まして、会員並びに当日ご多用の中をご臨席頂いた関係各位の皆さまに、厚く御礼申しあげます。

お陰さまをもって、産業振興を通じ「まちづくりへの貢献」を基本理念とするNPO法人発足から1年を経過しました。法人経験も無くスタートしたこの1年は、知名度も無く、社会的認知されるには日も浅く、将に土壌づくりの年でした。福岡県、北九州市、北九州産業学術推進機構、大学・高専その他公的機関並びに中小企業・工業団地等への訪問や提案・PR活動に奔走しました。

その努力の中から、下期に入って萌芽の兆しが見えはじめ、徐々に相談や引き合いを頂き、業務受託契約や本年度に結びつくプロジェクトへ発展してまいりました。と言ってこれらはまだ緒につ

いたばかりではあるものの、ここまで来れたのは偏えに行政及び関係各界からの温かいご支援の賜物と感謝いたしておるところでございます。

さて、平成16年度は、新役員により昨年度取り組んできたプロジェクトをベースに、6部会を中心に活動を推進してまいります。特に、福岡県ものづくり基盤技術強化事業の一環として発足した「金属プレス成型金型産学連携研究会」や、北九州市の環境行政に協力しての「環境首都構想」への参画、北九州産業学術推進機構への「相談員・専門家派遣」、中小企業への「ISO認証取得支援」、「ITネットワークの構築」、「広報」等には、積極的な推進を図っていく所存です。

つきましては、関係各位のご指導ご支援の程宜しくお願いいたし、ご挨拶とさせていただきます。

「下請からブランドメーカーへ」

〈記念講演要旨〉

株式会社 タカギ

代表取締役社長 高城 寿雄 氏

昭和36年に23歳で個人創業、金型製造で主に九州松下さんの下請けをしていた。これはなかなか固い仕事で、事業も順調に伸びて41年には現在地に工場を移転、48年2月には2億円かけて新金型工場と事務所を完成させた。

そこに襲ったのがオイルショックで、注文がなくなった。それまでは1年ぐらいで元に戻っていたのだが、今度はそうはいかなかった。

この挫折から3年の間に、中途半端な人が辞めていった。そして、行き場のない見習いと超ベテランとが残った。彼らが現在のタカギに繋がる技術を支えたので、結果的にはこれが良かった。今や業界での技術は、西日本一と自負している。

倒産してから、最初に何を考えるか考えた。その当時の石油ストーブはタンク一体型で、灯油缶の所に持って来て新聞紙を詰め、灯油用の100円ポンプで灯油を入れており、大変不便だった。そこでタンクが一杯になると止まるポンプを作った。

これを1,980円を出したら、翌年は2万本、2年目は20万本も売れた。

家庭用品主体に転換・直販へ

そこで52年4月から、主力製品を金型から家庭用品に切り替えた。

その当時は、今ほどにはシャワーがなかった。そこでシャワーを作った。これは100億円ぐらい売った。つぶれてから3年で売り上げが3倍に伸びていた。

債権者の間でも、負債を1割ぐらいの返済で和議を結んで早く取引を再開したいという声を持ち上った。その会合の席で、私は下請けからメーカー志向への方針転換を説明、清算をした上で54年11月に設立したのが、現在のタカギである。

次に手がけた製品がノズルだ。これは、ストレート、ジョロ、シャワー、キリ、ストップと水の出方が5つに変わる、ノズルファイブという。

そのヒントになったのは、女の人が蛇口につけ



たホースをいちいち外していたことからだった。

しかし、清水の舞台から飛び降りる気持ちでローンを組んで発売したこの製品も、最初から順調に売れたわけではなく、なかなかはけなかった。

アメリカ視察のバスで一緒になった日本のホームセンターの人たちに実演してみせたら、“なかなか面白いねー”と感心された。これが縁で全国のホームセンターに置いて貰えるようになった。

現在のシェアは60~70%くらい、250万本も売れており、1個7秒で作っている計算だ。

それから、ノズルに関連した製品を、次々に作っていった。営業力の弱かった当初は、ダイエーを通して売ったが、7%以上も取られた。そこで“こういった店を通さずに売ろう”と踏み切って直販に切り替えていった。今では、そのキッカケを作ってくれたダイエーに感謝している。

発展のカギは技術と人材

新製品も、開発して1、2年すると他社が参入してくる。そこで追随を許さないものとして、蛇口一体型浄水器を5年前に作った。お客の声を取入れ、2段切換えできるようにし、特許を取っている。すでに25万台売れたが、まだ投資額は回収し切っていない。浄水器には、苦情や問い合わせに24時間以内対応のアフターサービス体制に万全を期しており、10年間保証としている。

私の趣味は、若い時から「発明」、現在までの所有特許は170件を超えている。53歳で、立教大学法学部に入ったが、そこで学んだことが経営管理にも特許を守るのにもずい分役立っている。

会社がここまでになったには、良い人材に巡りあったことが大きい。人材集めとその仕込みには最重点に力を注いでいる。

K T S の動き

ものづくり振興会議発足 K T S もその設立に参画

さる7月26日(月)15時30分より、福岡市・ホテルレガロ福岡で、「福岡ものづくり産業振興会議」の発足式が開催されました。

当日は、関係機関・団体、企業代表等207名が出席、まず高木郁夫(社)福機連会長が挨拶の後、麻生渡福岡県知事から、本振興会議に期待を込めた祝辞が述べられました。

続いて次の正副会長を選任、

会 長 高木郁夫 (社)福岡県機械金属工業連合会会長)

副会長 山本雄造 (社)九州機械工業振興会会長)

事務局は、(社)福岡県機械金属工業連合会に置かれますが、企画運営委員会が設置され、企画運営の衝に当たることになっています。この委員会の委員として当K T Sから、石川浩理事・産学連携部会長の就任が決っています。

引き続いての平成16年度事業計画審議では、次の4項目が重点推進方針として掲げられました。

1. 生産現場へのIT導入の促進
2. 技術・技能の高度化
3. 後継者の育成
4. 交流・連携の推進

本振興会議の発足に先んじて「金属プレス成型金型産学連携研究会」(以下、「産学連携研究会」と略称)がスタート、北部九州の自動車関連プレス部品製作企業を中心に、「IT活用による金型設計製作のリードタイム短縮」をテーマに研究活動を推進中です。

この活動が、前記方針の1.「生産現場へのIT導入の促進」に該当するものと認められ、振興会議を通じて同研究会に助成決定がありました。

感銘深かった中島先生講演

総会に引き続いての記念講演では、この研究活動をテーマに、中島浩衛工学博士(北九州市立大学国際環境工学部客員教授、大同工業大学名誉教授)から、1時間にわたり講演が行われました。

産学連携研究会の研究拠点は、北九州市立大学国際環境工学部に置かれ、



7.26 ものづくり産業振興会議発足式

- (1) プレス金型成形の解析ソフト活用による開発期間短縮等による生産性向上
- (2) CAE解析シミュレーションの実践を通じての高度熟練技術者の養成を目指しています。

本研究会には、プレス金型企業5社が参加。支援グループ企業として新日鉄(株)八幡技研部(材料データベース提供等)、(株)トヨタコミュニケーションシステム(解析ソフトに関する情報支援等)、(財)北九州産業学術推進機構(F A I S)等が名を連ねています。当K T Sは、そのコーディネータ役として、実質上の事務局を担当します。

当K T Sの正会員でもある中島先生のお話は、本課題の背景から目的、IT化の重要性、解析ソフトの実例等について、高度な内容の明快な説明に、その実践化への期待で出席者の共感を呼び、その反響は予想を超えるものがありました。

この後第3部の交流会にも約100名の参加があり、本振興会議の発足を祝って交流の輪が拡がり盛況裡に幕を閉じました。

積極参加とご支援を



K T S 理事 石川 洪

昨年度後半から、私たち産学連携部会が推進してきた「産学連携研究会」の研究テーマがこのたび発足したものづくり振興会議から、助成

第1号に認定され、大変喜んでます。

この先端をいく金属プレス成型金型の研究開発は、自動車関連部品のみならず家電、電子機器等広汎な分野への拡がり期待されます。

コーディネータ役として事務局を担うK T Sとしても、大変やり甲斐のある任務です。関係各位の積極参加とご支援をお願いいたします。

改選後、初理事会開催

K T Sでは、7月6日(火)10時10分より、北九州テクノセンター4F会議室で、役員改選後の初理事会を開催しました。

当日は、理事12名全員が出席、まず全員がそれぞれ自己紹介の後、議事に入りました。

始めに各部会活動報告が行われて後、8月発行の夏期会報についての内容審議と協賛広告依頼の分担を決定、4～6月収支報告を承認しました。

各部会ともその活動が活発化しており、助成事業受託や事業所依頼が増加、第1～四半期は好調な滑り出しを示しています。

定例理事会は毎月1回、月初の週・火曜日に開催されます。5名の新任があり、今後の運営強化が期待されます。

なお、今回改選では、本村 隆、泉館昭夫、泊正雄の方々が退任されました。T・S会以来のご尽力に対し、衷心より感謝申し上げます。

☆支援部会活動概況

○技術・経営支援部会

- 「環境配慮型製品調査」を15年度事業として北九州市環境産業室から受託、産学連携支援部会と共同して、73社101件の企業訪問調査を完了、4.21、23日報告会。
- 「北九州市産業技術博物館」企業調査、70社を対象に6～9月にかけて調査進行中。

○産学連携支援部会

- 4.9 金属プレス金型産学連携研究会発足会、発足に至るまでコーディネーター活動、事務局を分担。
同研究会セミナー 6.2 第1回開催、これ以降逐次開催、7月末現在、5回終了。
- 金属プレス金型解析ソフトデモ、会員企業への巡回等を実施。
- 「福岡ものづくり産業振興会議」設立に研究会を通じて参画。
振興会議より、福機連を通じて研究会の研究テーマ対象に助成金第1号交付が決定。
その打合せ・申請業務等に当たる。

○I S O支援部会

- 前年度に引き続き、I S O認証取得、内部品質監査員レベルアップのための出前研修及び相談の実施。

- エコアクション21(E A 21)認証取得のコンサルティングの実施。
- 部会員の相互研さん実施(隔月に部会を開催)。

○E C O支援部会

- 「北九州エコプロダクツ2004」推進事業に参画、北九州市、北九州商工会議所、(財)西日本産業貿易見本市協会とともに当K T Sで共催、事業を推進。
- エコプロダクツの募集・事前調査業務を担当。

10月下旬予定の「北九州エコプロダクツ2004年」発表会に向けて、市、会議所、見本市協会及びK T S他部会と連携して推進。

- 北九州市の「環境首都」構想への参画。
- ### ○I T支援部会
- 各部会の紹介ページ追加、北九州エコタウンのホームページへのリンク、北九州エコプロダクツの募集ページへのリンク等、K T Sホームページの模様替え実施。
 - インターネットによる広報、ネットワークシステムの構築について取り組み中。

発展の兆し・16年度予算決定

K T Sの16年度予算は、総会で下記のとおり決定しました(掲載は略記)。まだささやかな規模ですが、先行き発展の兆しをみせています。

○16年度収支予算書(抄) (単位 千円)

科 目	16年度予算	15年度実績
1. 入会金、会費収入	450	890
2. 事業収入	(14,841)	(3,474)
(1)まちづくり組織支援	4,515	369
(2)環境保全技術開発支援	1,596	600
(3)I S O認証取得支援	8,400	2,195
(4)まちづくり支援	0	0
(5)広報・情報提供	330	310
3. 寄付金収入(会員より)		144
当期収入合計	15,391	4,508
前期繰越収支差額	501	—
収入合計	15,892	4,508
1. 事業費(各支援事業費)	14,165	3,148
2. 管理費(旅費交通費ほか)	1,219	859
当期支出合計	15,384	4,007
当期収支差額	7	501
次期繰越収支差額	508	501

◆ 事業所めぐり



株式会社

エーエスエー・システムズ

新年会報で始めた「事業所めぐり」、今回は、T・S会当時からご支援ご協力頂いている㈱エーエスエー・システムズに、7月20日午後、お訪ねしました。インタビュアーは、秦会長と三上理事の2人、麻上社長に業界動向、会社の近況と今後の展望をじっくりお聴きし、社内を見学しました。以下、その要約です。

◇ 会社概要

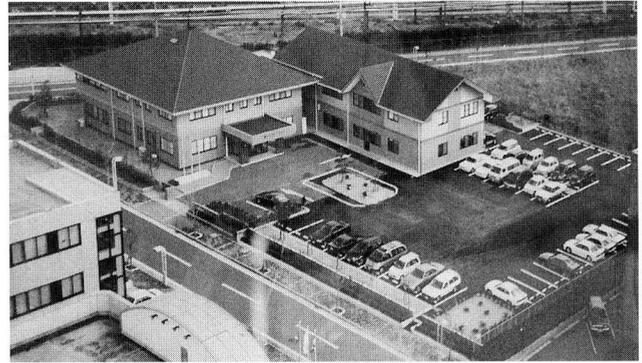
- 所在地 北九州市戸畑区中原新町3-3
北九州テクノパーク内
- 代表者 代表取締役社長 麻上 俊泰
- 設立 昭和59年11月20日 (1984年)
- 資本金 9,000万円
- 社員数 45名
- 事業
 1. コンサルティング (CAE・CAD・CAM・CAT&PDM)
 2. CAD・CAMシステム開発
 3. FA・PDMシステム開発
 4. パッケージソフト開発
 5. コンピュータ&関連機器の販売
 6. CADセンター (設計製図・CAD教育・展示等)

○業界の動向、当社の近況

国際競争が一段と厳しくなっている。国内ではハイレベルの所は仕事が増えているが、そうでない所はインド、中国あたりに取られている——2極分化しつつあり、淘汰が進行している。

開発の内容も、ぐんと変わりつつある。製造業の関係が漸減、携帯電話やデジカメ向けの開発が非常に増えてきた。インド、中国のレベルが急速に向上し、かなり仕事がそちらに流れている。

当社の主なクライアントは製造業だが、大手・中堅企業ではシステム化し、レベルも向上している。受注した開発が済んだらそれで終わりということではなく、そのソフトのお守り、途中の手直し等のフォローをやっておかぬと、次の開発受注が



エーエスエー・システムズ本社全景

難しくなる。パッケージソフトを作って売り込むと同時に、会社全体のシステムの更新・ハイレベル化を勧めることが重要になってきている。

○今後の展望と戦略

当社の受注の70%は東京、九州は10% (うち、福岡、北九州が7%) の現況だが、インターネットの発達で、国内だけでなく海外からの受注もできる環境になってきている。現地に支店を出さなくても地元の会社と提携してやれば良い。営業も1回出て行って成約すれば、国外でも国内でもネットに乗せれば良い。

S・Eの本拠は本社にしているが、今は買収して分社化した東京に、こちらから12人出向させている。受注形態も、直接受注もあれば大手から受けるのもあるが逆に当方から発注するケースもある。柔軟に対応せねば動けなくなっている。

目下当社で重点を入れているのは、力制御技術をベースに自由曲面金型のスーパー磨き自動仕上げシステム・「インテリジェント サンダー・ロボット」である。県工業技術センターや佐賀大学等と当社の共同研究で開発したシステムで画期的なものである。受注はこれからで、国内で売れ出したら、世界市場に拡げたいと考えている。

○“人材育成”がキーワード

当社の平均年齢は32歳、厳しさを増す国際競争の中での生き抜きには人材の育成が不可欠、1人1人の研さんによるレベルアップはもとより、これから大切なのは、リーダークラスのコンセンサスによる方向性の明確化だ。ボトムだった昨年から今年は増収増益の見込みだが、今年一杯かけてこの新たな方向性の確立を目指している。

お知らせとお願い

<http://tsk.ktc.ksrp.or.jp/>
 どんどんアクセス願います

K T S のホームページは、上記のとおりです。

この企画、製作、管理の担当は I T 支援部会ですが、その内容については常に刷新充実を心がけています。

「情報交換コーナー」では、会員に限らず広くどなたでも投稿を歓迎しています。

これらの努力で、最近ではアクセス回数が増加しつつあります。とは言っても、管内中小企業の総数からみれば、まだごく僅かにしか過ぎません。

ぜひクチコミでもお知り合いに P R して頂き、アクセスの増加にご支援ご協力下さるようお願いいたします。

お気軽にご相談を！

7 月末現在、K T S の正会員は 89 名です。

これを専門資格別にみると次のとおり、技術・技能、経営の広汎多岐にわたっています。

資格名称	人数	資格名称	人数	資格名称	人数
技術士	16	公害管理者	12	高圧ガス主任技術者	8
中小企業診断士	7	I S O 審査員	13	エネルギー管理士	2
危険物取扱主任者	6	工学博士	5	熱管理士	6
電気主任技術者	4	計量士	5	教員免許	3
ボイラー技師	1	X 線主任技術者	4	衛生管理者	4
英検 1, 2 級	2	情報管理士	1	経営士	3
品質システム審査員	3	環境計量士	2	環境カウンセラー	4
財務管理士	2	電気工事士	1	産廃技術管理者	1
社会保険労務士	2	無線・通信	3	その他	14

注：1 人で複数保有・重複あり。

中小企業はもとより、市民・地域その他の皆さんに広く門戸を開放しています。お気軽にご相談下さい。相談方法は、次のとおり種々あります。

1. 来所相談

連絡先：北九州テクノセンター 1 F・情報コーナー、K T S デスク

上記に来訪下さい。

原則として、毎週月・水・金（祝日を除く）

10:00~16:00、理事が交替で勤めています。

火・木は留守電で対応します。

2. 出前による支援

直接企業に出向いての指導支援です。そのご相談内容は、

- 新製品開発・商品化、新技術の導入紹介、研究開発等
 - 生産効率・品質管理、省エネ・省力化、環境問題、経営管理、エンジニアリング等
 - I S O 認証取得、I T の導入・活用等
- テーマにより、上記正会員のうちから最適の専門家を派遣します。

また、状況と希望に応じ、外部専門家を派遣することもあります。

派遣実費その他詳細については、事前にご相談下さい。

3. 企業ホームドクター

定期的に巡回し、相談・指導支援を行う方法です。これについても、ご希望内容を事前にご連絡下さい。

☆入会のご案内

K T S 会員の種別と入会条件は、次のとおりとなっています。（定款第 6、7 条）

- (1) **正会員** この法人の目的に賛同し、この法人の行う事業のいずれかについて技能、技術及び経営に関する学識・経験を提供し、活動に積極的に参加することが出来るシニア世代の個人
- (2) **賛助会員** この法人の目的に賛同し、活動に協力することが出来る個人及び団体
 入会金及び会費は、2 年度現在次のとおり。
 ①正会員 入会金 5,000 円、年会費 5,000 円
 ②賛助会員（個人）
 入会金 5,000 円、年会費一口 5,000 円
 ③賛助会員（団体）
 入会金 10,000 円、年会費一口 10,000 円
 関係各位の入会方を希望し、歓迎します。

編集後記

北九州 T S ニュース第 3 号・夏期号をお届けします。T・S 会ニュースから通算 16 号になります。法人化早々の昨年夏期号では、まだこれといった実績に乏しく、編集に苦労しました。

しかし今回は、活発な動きと実績の芽が出てきて、限られた紙面への盛り込みに圧縮や割愛を余儀なくされ嬉しい悲鳴でした。

末尾ながら、ご寄稿、ご協賛等ご協力頂いた各位に厚く御礼申し上げます。（T・M）

暑中お見舞い申し上げます



より精密により高品質に！

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・確実なレスポンスをモットーに、独自の技術開発力を武器にダイナミックな展開をしています。

大光炉材株式会社 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1
新素材開発部（ファインセラミックス）
http://www.taiko-ref.com Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

GL PIPE JOINTS 好評です
PAT. 2849345 JAPAN

GASKETLESS管継手
パッキンのいらない

新製品賞 '99中小企業 優秀新技術新製品賞
福岡県知事賞 中小企業先端技術展 福岡県知事賞

福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1
株式会社 大創 TEL ●(093)681-7195
FAX ●(093)681-7196
ご質問・お問い合わせは 専用FAX:(093)681-7197



福祉現場のニーズに応えた商品を、北九州市の企業のみならずといっしょに創っています

福祉用具への参入企業募集!

発売商品例

- 折たたみ介護ベッド（電動昇降型）
吉川機械工業株式会社
- おむつ交換カート「さわやかもちやん」
株式会社セントラルユニ
- 光触媒脱臭機（福祉施設・病院用）
東陶機器株式会社
- 在宅・施設用徘徊感知機「with you」
株式会社アダプテック
- ベッド用転落予知装置
ビービーエスシステム株式会社
- セーフティシール「ほっとシール」
日本乾溜工業株式会社
- 座位保持機能付き車いす「エイブルチェア」
株式会社有蘭製作所
- エイブルクッション
株式会社有蘭製作所
- パーソナルクッションkit
（社福）北九州身体障害者福祉事業協会
とりはた玄海園

社会福祉法人 北九州市福祉事業団
福祉用具研究開発センター
北九州市小倉北区馬場1-7-1 北九州市総合保険福祉センター1F
〒802-8560 Tel:093-513-1815 Fax:093-522-8771

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.kati.gr.jp/>

からだにやさしい生活

- 浄水シャワーの必要性
- 快適な睡眠と健康のために開発されたハイテク素材によるエアクイーン
- 体の中からキレイになるこだわりの豆腐製造機および豆乳

NPO介護支援ネットワーク協議会ふくおか会員

有限会社 千 素
センス

代表取締役 安松 邦博

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2丁目9番8号
小倉興産KMM南館3F
TEL(093)533-7705 FAX(093)533-7702

- 施設・在宅用徘徊感知器
 - 非接触個体識別装置
- ……お気軽にご相談を!!

ADAVE 株式会社 アダブテクノ

代表取締役 嶋田 裕之

〒805-0008 北九州市八幡東区枝光本町7-7 八幡ビル205
TEL 093-671-0277
FAX 093-671-0288

CAD、CAMの導入・活用、
生産管理のご相談は当社へ!

ASA 株式会社 エーエスエー・システムズ

代表取締役 麻上 俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL (093) 882-0100
FAX (093) 882-0066

代表取締役社長

波多野 浩

株式会社 **九州メディカル**

■本社 ■バイオ事業部 ■西日本調剤センター薬局

北九州市小倉北区大手町13-4 〒803-0814
TEL093-592-0511(代) FAX093-592-1206
e-mail▶kmed@05.alphatec.or.jp
home page▶http://www.alphatec.or.jp/~kmed/



繊維強化プラスチック管（FRP）

『MK-NEW-Sパイプ（特許出願中）』 新登場!!

特徴：耐薬品はもちろん、表面が滑らか、従来品より低価格、着色可能等・・・

詳しいお問い合わせは下記まで、お気軽に連絡下さい。

MKK 丸栄化工株式会社

代表取締役 内田 宏一



〒803-0186 北九州市小倉南区大字新道寺910番地
TEL 093-451-0538
FAX 093-451-0583
mkk@maruei-gr.co.jp